

# 長浜市森林ディレクション審議会（令和4年度第1回）議事要点録

○日時：令和4年7月12日(火) 9:58～11:40

○場所：長浜市役所4階 4-A会議室

○出席者：委員：10名(敬称略)

会長：滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科教授：高田 豊文

委員：長浜市伊香森林組合森林整備課長：小谷 茂喜

委員：鳥居木材株式会社代表取締役：鳥居 憲治

委員：滋賀県湖北森林整備事務所林業振興係副主幹：北村 晶子

委員：小谷丁野町里山づくり委員会会長：中島 勘一

委員：LLP木民代表：東 逸平

委員：山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会理事：長澤由香里

委員：滋賀県猟友会長浜支部長：内海 來

委員：公募市民：大塚 修

委員：公募市民：隅田 あおい

市(事務局)：5名

産業観光部：川崎達雄管理監

農林政策課：尾崎栄治課長、土田孝洋課長代理、伊藤真一主査

森林田園整備課：堤昭彦副参事

○内容

1. 開会

2. 議事

(1) 本年度の審議内容について

(事務局)

➤ 1. 長浜市森づくり計画掲載事業の令和3年度取組内容について

2. 長浜市森づくり計画の改定について

2. については、国の「森林・林業基本計画」「全国森林計画」変更を受け、県計画の「湖北地域森林計画」が改訂されるため、本市の計画についても、国及び県の上位計画との整合性をとるため、改定を行うことを説明。なお、改定が見込まれない場合には、本市計画に掲載されている事業の現地視察を行う旨を説明。

(委員)

➤ 質疑なし

(2) 長浜市森づくり計画掲載事業の令和3年度進捗状況について

(事務局)

- 令和3年度の施策進捗状況について説明。6つの基本施策の達成率評価をまとめた。

【 評価報告：基本施策① 森林の大切の啓発と魅力の発信 】

(委員)

- 「広報媒体による森林・林業の情報発信」は、全国植樹祭のPRもあり、掲載回数が増加したようだが、当該事業も終了し、今年度は低調になる見込みか。

(事務局)

- 令和3年度と同水準は難しいが、積極的に広報活動に取り組む。

(委員)

- 当該事業のほか、達成率が良い事業が令和4年度以降も維持されるように取り組んでほしい。

(委員)

- 「体験型木育事業」は、施設を巡回する計画か。

(事務局)

- 多くの子どもに体験機会を提供したいことから、施設側の理解を得られることが前提となるが、巡回したいと考える。

(委員)

- 令和3年度に木育事業が実施されているが、予算がないのはなぜか。

(事務局)

- 保育施設に対する木製おもちゃの配布を令和3年度までの計画として取り組んでいたが、令和2年度に前倒しで配布が完了した。令和3年度は「体験型木育事業」の検討期間で、予算措置がなかった。

【 評価報告：基本施策② 市民の協働による森林づくり 】

(委員)

- 企業の森協定地で行われた取組(森林環境学習)の効果検証は行わないのか。

(事務局)

- 県事業に基づく取組であり、市では行っていない。

(委員)

- 協定地は滋賀県造林公社の分収造林地であり、民-民の協定に基づく取組であるため、県でも実施していない。

(委員)

- 事業の効果検証は、すべての事業で必要なことであり、どこかで検証するようお願いする。

(委員)

- 森林多面的機能推進事業を始め、予算がある事業は令和4年度計画数量も記載してはどうか。

(委員)

- 森林多面的機能推進事業における今年度の実施予定はいかほどか。

(事務局)

- 継続の団体分も含めて、予算ベースで10団体分を予定している。

(委員)

- 今後、取組が先細りしないように取り組んでほしい。

### 【 評価報告：基本施策③ 次代の森林を支える人づくり 】

(委員)

- 緑の少年団への活動助成は、活動休止中への団体にも行っているのか。

(事務局)

- 活動中の団体のみ助成している。活動中の10団体のほか、休止中の団体が3団体あることを示している。

(委員)

- 休止中の団体に活動再開が見込まれないのであれば、指標を見直してはどうか。また、予算の措置も、現状に合わせて組み直した方がよいのではないか。

(事務局)

- 学校の事情もあることから、難しい状況にある。
- 指標の見直しは検討する。なお、予算の措置は、少年団の現状に合わせて行っている。

(委員)

- 指標を見直すかどうかは、少年団を増やしたいのであれば現状維持、減ることはやむなしであれば修正する等、長浜市の考え方に基づいて検討してほしい。

(事務局)

- 意見を踏まえて、検討する。

(委員)

- 地域おこし協力隊の採用活動の進捗状況はどうか。

(事務局)

- 募集定員2人に対し、3人の応募があり、今月末に面接選考を実施する。

### 【 評価報告：基本施策④ 森林資源の利用拡大 】

(委員)

- ウッドショックの影響はあるか。また、法律改正により、木材利用の推進対象となる建築物が民間建築物にも拡大されたが影響はあるのか。

(事務局)

- 法律改正により、市の基本方針を改定する必要性は生じたが、現時点では民間建築物への影響はない。また、ウッドショックの影響は、住宅への市産材助成制度の申請状況からは判断しかねるが、住宅資材の調達遅れ等、木材の高騰以外の要因による新築工事の着工遅れにより、事業が伸び悩む恐れはある。

(委員)

- 市外で整備された住宅にも補助されるのか。

(事務局)

- 補助対象外となる。
- 現行制度では、個人住宅以外に、小規模事業者の事務所整備にも利用でき、法改正に対応できる制度になっている。なお、法改正を受けて、補助制度の需要が高まることも予想されるため、補助内容や使い勝手の改善等を検討していきたい。

(委員)

- 木材価格は今後も高止まり、恒常化することが見込まれる。木材の在庫不足ではなく、ガソリン価格の高騰や他のコスト高を受けて価格があがっている。他の要因がからみ、ウッドショックにより件数が伸び悩むことはないと考える。

(委員)

- 国体に関連する施設での市産材利用の予定はあるのか。

(事務局)

- 利用計画はない。過去、長浜伊香ツインアリーナの整備事業で使用している。

(委員)

- 今後、薪市場出荷量が増える目論見はあるのか。

(事務局)

- 主要な出荷先であるバーデ浅井で、重油ボイラーの更新が控えていることから、新たに薪ボイラーによる熱供給が増加すると、薪出荷量を高められる可能性がある。

## 【 評価報告：基本施策⑤ 効率的な木材生産 】

(委員)

- 森林施業の団地化は進んでいるということか。

(委員)

- 団地数で見れば多い方であり、今後もこの水準を維持できるとよい。

(委員)

- 素材生産量の実績が伸びていない。県の目標値に基づき指標を設定するのもよいが、市の計画としての目標を設定してはどうか。
- 集約化団地の推進が素材生産の増加に必ずしもつながるわけではない。両指標の達成状況は相反する部分もあり、評価しづらい。

(事務局)

- ご指摘のとおり集約化の推進と木材生産の増加は整合が取れない部分もあり、素材生産量の実績は芳しくない。素材生産の増産に向け、高性能林業機械の導入支援等、必要な取組を進める。

(委員)

- 山の林齢構成を踏まえ、国及び県の森林施策は間伐から主伐・再造林にシフトし始めており、将来的に、素材生産量の増加が期待される。

(委員)

- 素材生産量の指標に対し、達成率が悪い中で課題が未記入では市の姿勢が見えないので記入してほしい。

(事務局)

- 対応する。

## 【 評価報告：基本施策⑥ 環境に配慮した多様な森林づくり 】

(委員)

- 竹生島のタブノキ林の再生が進んでおり、地肌が見えなくなっている。また、カワウ等の捕獲は、市事業のほか県事業でも取り組んでいる。一方で、竹生島へのイノシシの侵入が確認されており、被害を心配している。

(委員)

- 集落周辺での獣害対策に資する事業であるので、里山防災・緩衝帯整備事業の一部廃止を見据えて、使用面のハードルを下げる形で市単独事業として検討できるのであればお願いしたい。

(委員)

- 令和5年度以降も、獣害対策の緩衝帯事業は存続する見込みである。

(事務局)

- 使い勝手が悪いとの意見もあったので、県で見直しを検討してほしい。

## 【 その他 】

(事務局)

- 法改正を受けて、公共建築物長浜市産材利用促進基本方針の改定作業を行う予定であり、今後、改定案について審議をお願いしたい。

### 3. その他

- 意見・提案シートに記入いただいた意見は、共有する。
- 次回の審議会は、11月15日(火曜日)10時からで予定している。

### 4. 閉会